

「次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。なお、字数指定がある場合、句読点は一字として数えます。

「わたしの気持ちなんてだれも分かってくれない。」

このようなことを考えた経験はあるだろうか。安心してほしい。そう考えるのは普通のことであり、きっとほとんどすべての人がその思いをもって大人になっていく。しかし、だからといってそのままではいけない。できることなら自分の気持ちを周囲に正しく伝えられるようになってもらいたい。だから、大人たちは「勉強しなさい。学習しなさい。」と言うのだ。

私たちはいつも何かを考えて生きている。そして、感情をもって、感情をもつて、a二チジョウを過ごしている。では、自分が考えたことや感じたこと、何かによって生まれた感情や思いを余すところなく、だれかに伝えることは可能であろうか。もし、それができるとしたらどうやって？

人間とほかの生き物との大きく異なる特徴に知能と言語の活用が挙げられる。たとえ知能が高くても、A言葉なしで考えを伝えることは困難である。人間はこの二つを探究し、b駆使することで現在の繁栄を手にすることができた。①これらを用いて、人間は、cタガいの思いを伝えられるようになったのだ。一、同時にそれは人間に大きな苦悩を与え続ける原因にもなってしまった。

「この人は本心で話していないのではないか。何か隠し事をしているのではないか。私を信用していないのではないか。」

ここに、不安が生まれる。d隔たりを感じる。eゴドクに襲われる。自分が分かったつもりになっていることは、相手が表面に出した思考のごく一部であり、それゆえに②言語化されていない部分も③みえるようになってしまった。それゆえ、人間は相手のことをもっと分かった、自分のことも分かってほしいと思いつけるようになった。冒頭に示したつぶやきは、このような経緯でなされた人間の普遍的な苦悩を表している。

私たちは考えたこと、感じたことを言葉にする。それは自分にしか理解できない思考の塊を、相手も理解できる言葉に変換する作業だ。しかし、大きな塊から切り取ることができるのはほんの一部分でしかない。それでも、それらをつなぎ合わせて元の形を分かってもらおうとする。二、少しでも完全な状態にするためには多くの言葉を知らなければならぬ。三、「果物のレモンを今まで見たことも食べたこともない人に説明するにはどうすれば良いだろうか。きっと、「黄色い」「甘酸っぱい」「楕円形」など思いつく限りの言葉を並べるだろう。

そして、言葉の数が増えるほどあなたのレモンのg輪郭は鮮明になる。実を言うと、勉強とはこうした言葉の数を増やすためにあるのだ。「みなさんは何の勉強が得意だろうか。」

このように問われて、国語、数学、理科、社会、hビジュツと、何かしらの科目を思い浮かべたとしたら、今行われたその思考はある前提によって行われている。それは、国語と数学、理科や社会は別のものだ、という考えである。科目として分かれているのだから当然だと思うかもしれない。しかし、これらは言葉の数を増やすという目的では共通している。違ふとすれば得意とする言語の分野が違ふだけだ。時として「勉強」と同義に考えられる教科や科目とは、ものごとの見方や考え方を学ぶためのものである。だから、数学を勉強するという行為は、数学的思考を「キタえること」であり、その行為を通して数学的言語力の修得や向上がなされる。ここで少し高校の数学について紹介しよう。中学校で習った二次関数を用いると、x軸、y軸からなる平面上に放物線を表すことができた。高校数学では波形や円、そして、楕円も数式で表すことができる。つまり、④レモンに彩りを一つ加えることができるのだ。

自分の気持ちを説明することもレモンについて説明することも本質は同じである。相手が知らない未知のことに対して、できる限り多くの言葉を探し、組み立てていく。当然、B言葉の引き出しは多い方がよい。国語の授業で梶井基次郎の『檸檬』を読むのも、数学で楕円の方程式を学ぶのも、言葉の数を増やすという点では同じだと言える。また、言葉の数が増えれば、伝えるだけでなく、より正確に相手の考えを受け止めることもできるだろう。国語、数学、理科や音楽などは、私たちが生きるこの世界をそれぞれの視点で切り取ったものである。だから、漢字や数式、甲や音符などの言葉を学ぶことは、この世界のより深い理解へとつながる。そして、そうした言葉を組み立てることで、自分の気持ちをより、j鮮やかに伝えることができるのではないだろうか。

〔私とレモンとこの世界〕本校教員による文章

問一 二重傍線部 a、j のカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなで答えなさい。

問二 空欄 一、二 に入る語として適切なものを次のア、イよりそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

ア しかし イ たとえば ウ つまり エ だから オ たしかに

問三 太線部 A 「言葉なしで考えを伝える」、B 「言葉の引き出し」と最も近い表現を次のア、イよりそれぞれ選び、記号で答えなさい。

A 言葉なしで考えを伝える ア 明鏡止水 イ 不言実行 ウ 以心伝心 エ 心頭滅却

B 言葉の引き出し ア ボキャブラリー イ ボランティア ウ ボーキサイト エ ポリウム

問四 傍線部①「これら」が指すものを本文中より五字で抜き出さない。

問五 傍線部②「言語化」とはどういうものだと筆者は考えているか。本文中より三十五字以内で抜き出さない。

問六 傍線部③「みえる」とあるが、ここではどのような意味で使われているか。次のア、イより一つ選び、記号で答えなさい。

ア 視界に入ってくる イ 存在を感じられる ウ 相手に慣れる エ 付き合っていく

問七 傍線部④「レモンに彩りを一つ加えることができる」とあるが、これは具体的にどのようなことか。二十五字以内で説明しなさい。

問八 空欄 甲 に入る語として適切なものを次のア～エより一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 発音記号 イ 元素記号 ウ 地図記号 エ 記述記号

問九 本文の内容として適切なものを次のア～エより一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分の感情を少しずつ他人に伝えることで、人間は次第に大人になっていく。
イ 言葉を用い感情の伝達ができるようになることで、人間の苦しみは減少した。
ウ 感情を正しく伝えるためには、できる限り多くの言葉を修得する必要がある。
エ 一緒に勉強することを通して、気持ちの通じ合う友達を見つけることができる。

Ⅱ 次の文章は『竹取物語』からの出典である。月に帰る際に、かぐや姫は不死の薬を帝に贈った。本文は、姫の護衛を任されていた中将がこの薬を帝に渡す場面である。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

中将、人々引き具して〔※1〕帰り参りて、かぐや姫を、え戦ひとめずなりぬること、こまごまと〔※2〕奏す。〔※3〕薬の壺に御①文「添へて参らす。広げて御覧じて、いとⅡあはれがらせ給ひて、〔※4〕物も聞こし召さず、御遊びなどもなかりけり。大臣・上達部を召して、「いづれの山か天に近き」と問はせ給ふに、ある人奏す、「A駿河の国にあるなる山なむ、この都も近く、天も近く侍る」と奏す。これを聞かせ給ひて、

あふこともなみだに浮かぶわが身には死なぬ B も何にかはせむ

かの奉る不死の薬壺に文具して、御使ひに賜はず。勅使には、調石笠つきのはかきといふ人を召して、駿河の国にあるなる山の頂に持てつくべきよし仰せ給ふ。峰にてⅢすべきやう教へさせ給ふ。御文、不死の薬の壺並べて、火をつけて燃やすべきよし仰せ給ふ。そのよし承りて土どもあまた具して山へ登りけるよりなむ、その山を「Cふじの山」とは名付け D。その煙いまだ雲の中へ立ち上るとぞ、言ひ伝へたる。

注〔※1〕帰り参りて…(中将が)帝のもとに帰参して 〔※2〕奏す…(天皇や上皇に)申し上げる

〔※3〕薬の壺…かぐや姫が贈った不死の薬が入った壺

〔※4〕物も聞こし召さず、御遊びなどもなかりけり…何もお食べになられず、音楽の演奏もなされない

問一 二重傍線部Ⅰ～Ⅲの語を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで答えなさい。

問二 傍線部①「文」、②「あまた」の意味として適切なものを次のア～エよりそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- ① 文 ア 手紙 イ 漢詩 ウ 和歌 エ 仏典
② あまた ア 余分に イ 強引に ウ 何度も エ 数多く

問三 太線部A「駿河の国」とは現在のどこにあたるか、次のア～エより一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 富山県 イ 岩手県 ウ 静岡県 エ 山口県

問四 空欄 B に入る語を本文中より漢字一字で抜き出しなさい。

問五 太線部C「ふじ」には二つの言葉が掛けられている。「富士」ともう一つ、何が掛けられているか。本文中から抜き出しなさい。

問六 空欄 D に入る語として適切なものを次のア～エより一つ選び、記号で答えなさい。

- ア けら イ けり ウ ける エ けれ

問七 本文の内容として正しいものを次のア～エより一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 中将はかぐや姫と口論になってしまったことを帝に報告した。
イ 帝は月に帰ったかぐや姫と会うために高い山を探させた。
ウ 大臣や上達部の中に帝の質問に答えられる者はいなかった。
エ 調石笠は帝の命令を受けて駿河の山に登ることとなった。

問八 竹取物語の作者は未詳とされている。これと同じく作者未詳とされる作品を次のア～エより一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 平家物語 イ 源氏物語 ウ 枕草子 エ 徒然草

Ⅲ 次のことわざ・慣用句・故事成語の問いに答えなさい。

問一 次の①～⑤の空欄の中に漢字一字を補い、ことわざ・慣用句・故事成語を完成させなさい。ただし空欄には体に関する語が入ります。

- ① を冷やす (気持ち冷静にすること) ② から火が出る (恥ずかしいこと)
③ の上のこぶ (邪魔なもの) ④ にたこができる (何度も聞きうんざりすること)
⑤ を酸っぱくする (同じことを繰り返して言うこと)

問二 次の①～⑤の意味を持つ語を、次のア～コよりそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- ① 陰口 ② 限界 ③ 熱心 ④ 逆転 ⑤ 容易
ア 起死回生 イ 一期一会 ウ 故郷へ錦を飾る エ 四面楚歌 オ 負け犬の遠吠え
カ 一所懸命 キ 仏の顔も三度 ク 赤子の手をひねる ケ 張子の虎 コ 柔よく剛を制す

受験番号 【 名前 】

赤…2点 黒…3点 青…5点

Ⅲ		Ⅱ								Ⅰ												
二	一	八	七	六	五	四	三	二	一	九	八	七		六	五			四	三	二	一	
①	①	ア	エ	ウ	不死	薬	ウ	①	I	ウ	イ	を	櫛	イ	す	を	自	知	A	I	f	a
オ	頭							説	円			る	、		分	能	ウ	ア	くだもの	日常		
②	②							ア	そえて			明	の		作	相			に	と	g	b
キ	顔							②	Ⅱ			で	数		業	手			し	言	りんかく	くし
③	③							エ	あわれがらせ			き	式		る	を			理	理	B	Ⅱ
カ	目	④	④	こ	用	で	で	解	解	ア	エ	美術	互									
④	④	と	い	き	き	で	き	で	き			i	d									
ア	耳	。て	、	る	な	言	い	言	い			Ⅲ	Ⅲ	鍛	へだ							
⑤	⑤	レ	モ	葉	思	業	思	葉	思	j	e											
ク	口	ン	ン	に	考	に	考	に	考	イ	あざ			孤独								
		の	の	変	の	変	の	変	の			あざ	孤独									
		形	形	換	塊	換	塊	換	塊													